

(3) - 2 人材育成事業

造船関連産業における「複合型生産技術者」の育成

—西九州テクノコンソーシアム人材育成事業—

人材育成事業講座実施責任者 電子制御工学科 教授 川下智幸

平成18年度から始まった経済産業省『高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業』の採択を受け、本年度『造船関連産業における複合型生産技術者の育成』のテーマで、西九州テクノコンソーシアム（以下、NTCと記す）の人材育成事業の一環としてNPO法人長崎県科学・産業技術推進機構（管理法人）の協力を頂き、取り組んできました。

この事業は、団塊の世代の退職時期（2007年問題）にともなう、ものづくり技術者の人材不足、技術伝承問題の解決を念頭において実施するもので、佐世保高専の高度な専門知識を有する教員と高専内の最新設備を用いて、地域の企業の協力を得ながら、佐世保市を中心とする長崎県北部地域、および佐賀県西部地区の基幹産業である造船関連産業に携わる中小企業の若手技術者育成を目的に行ったものです。

表1に、今年度実施した講座内容および受講状況を示します。総定員100名に対して、受講生138名と定員を大きく超える実績を残すことができました。図1、図2には、講座の様子（写真）および参加者の職種内訳、アンケート結果を示します。参加された若手技術者は、機械職、ソフトウェア開発・SEの方が最も多く、講座内容についてのアンケート結果から判断しても、良好な評価を得ていると思います。また、受講生および派遣企業等からの声として以下の意見が寄せられました。

《受講生》

- ・最新技術・機器の活用方法、基礎知識の理解の再認識、講座だけでなく、実習・演習で知識が深まり、業務の視野が広がったことで、今後の業務提案の参考になった。
- ・造船に今まで以上に興味を持てるようになった。
- ・実際の業務に活用できないが、講義内容は、未知の分野で興味深い。等

《派遣企業》

- ・知識、見聞をひろめるために十分役立ち、また、社内業務に役立つ内容であった。
- ・実習、演習については、グループ化してやってほしい。等

《全体として》

- ・派遣企業の90%が役に立ったと回答があり、実践実習をメインに、実技時間をもっと増やしてほしいとの意見もあった。

また、参加された受講生に対して、来年以降について参加の有無を確認したところ、積極的に参加する（19%）、興味がある講座には参加する（79%）など、とても期待が大きい事がわかりました。

経済産業省の委託事業は、平成18、19年度の2年間ですが、平成19年度も継続で採択されるように、現在申請内容についてNTC関係者の意見を伺いながら検討を重ねているところです。そして同時に、NTCの自立的開講講座としての展開も計画しており、今後、この人材育成事業をNTCの中核事業として定着化したいと考えております。

高専は、平成16年4月の法人化後の助走期間を過ぎ、これから本格的に改革を進めていくこととなります。その大きな柱が、地域密着です。佐世保高専が、県北地区唯一の工業系高等教育機関として、地域の中で絶対的に必要な存在になることが目標です。今後とも、佐世保高専は、NTCの人材育成事業を全面的に支援し、この地域の活性化に少しでも貢献できるような活動を展開していく所存です。今後とも、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。